

アトリエ 琉游舎 だより 100号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
 琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2021年3月10日発行

春の彼岸会法要

3月21日（日）10時半から

☆彼岸は悟りの世界。煩惱に満ちたこちらの岸（此岸）に対して極楽浄土の向こうの岸（彼岸）を表します。私たちは六波羅蜜の教えを実践する事により彼岸へ渡ることができるとされていますが 凡人であるこの身では、六波羅蜜の教えを毎日実行することは難しいことなので、せめて春と秋の年2回はその教えを実行する。これが現在の彼岸法要の意味となっています。

☆ちなみに六波羅蜜とは彼岸へ到達（パラミータ）するための6つの実践徳目です。

1 布施：施しをする。 **2 持戒**：戒律を守り反省する。 **3 忍辱**：不平不満を言わず耐え忍ぶ。 **4 精進**：一所懸命努力する。 **5 禅定**：心を静かに保つ。 **6 智慧**：真実を見抜く智慧をもつ。

☆「彼岸」というとなにやら抽象的な場所に聞こえますが、私は日常のやすらぎのところこそが「彼岸」であると思っています。自分自身が自由で素直で柔軟になったときに顕れる心の平安が、「やすらぎのところ」であり「彼岸」だと信じています。今生活しているこの場が彼岸です。

☆年に2回のお彼岸には、お墓参りや、ぼた餅を作ったり、茶をたてたり、瞑想したり、写経したりまた掃除をいつもより念入りにしたり、花を植えたり、鳥の声に耳を傾けたりと、いつもと違うことを一つでもいいので実践してみてください。それがあなた自身の年2回の六波羅蜜の実践です。

☆琉游舎で年2回の六波羅蜜の実践を一緒にしてみませんか？

☆琉游舎の活動は営利事業ではありません。また私は職業僧侶でもありません。お布施は一切お構いなきようよろしくお願い申し上げます。もちろん宗教宗派を問いません。すべての皆さんのための開かれた「場」です。皆さんのお越しをお待ちしています。

- 詩話会**

3月は中止と
いたします
- 写経会**

4月4日(日)
13時半から
- 居酒屋の会**

3月25日(木)
16時半から
- 読書会**

3月23日(火)
13時半から

99号の琉游舎だよりで春の彼岸会法要を22日とお知らせしましたが21日（日）の誤りでした。謹んで訂正いたします。

3/18	13時半	ぼくの伯父さんの休暇 (87分)	ジャック・タチ監督。バカンスに向かう人々の中にボンコツ車を操るユロ氏、リゾートホテルを舞台に他の客に迷惑をかけるユロ氏の立ち振る舞いが微妙な笑いを生むコメディ映画。
木			
3/25	13時半	アリバイなき男 (99分)	フィル・カールソン監督、カンザスシティの銀行で起こった覆面強盗事件、生花配達員のロルフは知らぬ間に巻き込まれ容疑をかけられてしまう。
木			
4/1	13時半	子供たちは見ている (79分)	ヴェットリオ・デ・シーカ監督。妻の不倫に苦しむ夫はひとり息子プリコはを親戚に預ける。大人たちの身勝手をあぶり出すプリコの鋭い視線。監督のネオレアレズモ映画の名作。
木			
4/8	13時半	モンキービジネス (97分)	ハワード・ホークス監督ケリー・グラント主演。チンパンジーが偶然作り出した若返りの薬を呑んだ科学者と妻が引き起こす大騒動。秘書役はマリリンモンロー
木			
4/15	13時半	舞踏会の手帳 (129分)	ジュリアン・デュヴィヴィエ監督。未亡人となったクリスティーヌが16歳の時に書いた手帖そこには彼女に思いを寄せた男性の名が綴られている、彼らに会おうと彼女は旅に出る。
木			

立春を過ぎてから三寒四温を繰り返す日が続きます。雨の日が周期的に訪れるようになり、気温の変化も日ごとに大きくなってきました。2月28日の最低気温は-8.2度^{注1}でしたがその2日後は4.4度、なんと最低気温の差が12.6度もあったのです。最高気温も一番高い日が20.7度で低い日が4.3度、その差は16.4度です。まだ冬と思われるこの1ヶ月間で真冬から5月初め頃の気候まで一気に味わえるほど、気温の乱高下が激しい今年の冬でした。そんな中でも春は確実に訪れています。ちょっと油断していたら花開いてしまった路の臺。杉花粉がベランダを黄色く染め、啄木鳥の木をつつく音が聞こえはじめたのは2月の中頃。そして2月26日に鶯の初鳴きを聞きました。今年はちょっと遅かったかなと日記をひもとくと昨年は19日でした。とは言っても私の耳目の届く限りの記録ですから正確性に欠けます。そこで気象庁の「生物季節観測情報」を閲覧してみました。これは桜の開花日や鳥などの初鳴き日を毎年定点観測してホームページ上で公開されているものです。参考値は25キロほど南にある宇都宮の記録。去年の初鳴き日は3月18日、平年値は3月9日でした。

この数字はちょっと不思議ですね。宇都宮より北の寒い場所に住む私は去年も平年値も一ヶ月近くも早く初鳴きを経験しているのです。自然環境の差が主な要因とすれば、鶯はまず私の住むこの森林地帯で鳴き方の練習をして、上手になったところで観測地の里に下りてお披露目する習性があるのではと勝手に想像したくなるような、気象庁（客観）と私の耳（主観）の差です。2月の最高・最低気温の平均値は7.6度・-3.9度です。この平均値はあくまでも日々の変化や感覚を切り落とした数字であり私の毎日ではありません。私の生活の中では最高気温が20.7度の翌日が4.3度の日は、その変化に身心共について行けず、風邪をひいたり外に出るのが億劫になってしまうでしょう。気象庁のデータは地球温暖化や動植物の生育や社会生活を予測する研究の客観的な基礎資料ですが、日々私が体感する自然の主観データとは異なるものです。ただこの二つの異なるデータとの差違や共通点にあれこれ思い巡らすこともまた自然と私の行いと対話なのでしょう。

長い年月を経て今に在る人物は、その行動と思想が数多の人の評価を受け続けていく間に、例えば私の日蓮は私たちの日蓮へそして日蓮宗の日蓮へと変容していきます。人間日蓮から教団の祖師日蓮へ、私の耳目の届く範囲で観た主観の日蓮から、厳しい時間の評価をくぐり抜け誰もがアクセスできる客観的な日蓮への変容です。「汝早く信仰の寸心を改めて速に実乗の一善（法華経）に帰せよ。然れば則ち三界は皆仏国なり。

（中略）此の言信ず可く崇む可し^{注2}（法華経の教えに帰依しなさい。さすればこの世界は仏の国となる。信じなさい）と結ぶ力強い日蓮の宣言です。私はこの言葉をいきなり投げかけられてもそうですねと受け入れるほど素直ではありませんし、論証の末の結論だとしても、対案と比較するなどの精査を経てからではないと人に語ることはできません。一方こんな手紙を頂いたらどうでしょう。信者から届けられた芋のお礼の書簡です。恐らく「珍しくもないものですが」という口上が添えられていたのでしょうか。すると日蓮の返事は「此の身延の谷には石がたくさんあるが、駿河の芋のように候石は一つも候はず」といきなりありえない「いし」と「いも」の比較をし「芋のめづらしき事暗き夜の灯火にもすぎ、渴ける時の水にもすぎて候ひき、いかに珍しからずとはあそばされて候ぞ、されば其には多く候か、あらこひしあらこひし^{注3}駿河の芋がどんなに珍しく有り難いものかを大仰とも思える比喻でユーモラスに語ることで感謝の気持ちを伝えています。さらに「法華経・釈迦仏にゆづりまいらせ候いぬ、定めて仏は御志をおさめ給うなれば御悦び候らん（有り難い御供養であるから法華経・釈迦仏にお譲りしました。仏は必ず志を納められお喜びでしょう）」と続けます。この様な手紙を頂いた人は法華経そのものに帰依するのではなく、日蓮の言葉と行いを通して法華経に帰依するのではないのでしょうか。私の日蓮（主観）がこの手紙の中に在り、宗祖の日蓮（客観）が立正安国論の思想の中に在るならば、また「信（帰依）」が与えられるのではなく、言葉と行いによって自ら獲得するものならば、その教えと行動とを自分の身に置き換えて、今の私自身の言葉と行いにならなければなりません。ですから私は主客の両視点を持って日蓮と語り合い行い続けなければならないはずなのです。

行うことで初めて「信」を獲得できうる私にとって、数字や記録だけを眺めていても日々の生活の指針にはなりません。まずは私の耳目手足の届く範囲からです。そこからありのままの姿（実相・真如）を観ようとし行うこと、これが私の主観です。その主観は私の日蓮聖人や私のお釈迦様と語り合うことで得られるものです。歴史や思想の中に在る祖師日蓮や釈迦牟尼仏は歴史的事実や文献と同じように権威と権力と正邪の判断権を有する社会の耳目手足です。これは私にとっては客観です。宗教者は主観の人でも客観の人でもいけません。私の耳目手足がありのままに観てありのままに行うことを、社会の耳目手足で照射し、私はそれを確認し確信することが必要なのです。それが「行うことによって信を獲得する」ということです。つまり、宗教者に限らず私たちは主客両眼の人とならなければいけないということです。そのために、私の日蓮聖人、私のお釈迦様、私の自然、私の社会に「信」を置くことのできる「私」にならなければならないのでしょう。

二月中はまだ拙かった鶯の鳴き声が、今ではきれいなホーホケキョに変ってきました。昔の人はこの声を「法（宝）法華経」と記し経読鳥と呼んだようです。「口唱ひまなくせる春の田の蛙の昼夜に鳴くがごとし。ついにまた益なし（念仏や題目をただ唱えるだけでは田圃の蛙のようで益なし）」^{注4}と 琉游舎：戸井 出琉・恭子 唱えるだけの無益を語った道元も、私と同様、春の穏やかな心地と桜の 開花を連れて来る鶯のホーホケキョには心安らいたことでしょう。

注1：気象庁塩谷町定点観測データより 注2：立正安国論 注3：九郎太郎殿御返事 注4：道元「正法眼蔵」